JAFスポーツWEB

2019年JAF北海道ラリー選手権第6戦　2019年JMRC北海道ラリーシリーズ第6戦
TOYOTA GAZOO Racing Rally Challenge 2019 Joint cup北海道シリーズ第6戦 とかち2019［JAF公認No.2019-8008］

開催日：10月12～13日　開催場所：北海道　格式：準国内　主催：RTC［クラブ登録No.加盟49003］

フォト／加藤和由、JAFスポーツ編集部　レポート／JAFスポーツ編集部

松波克知ランサー、最終戦を制してV2を確定！

RA-1クラスの松波克知／尼子祥一組はシーズン4勝めをあげ、チャンピオンを決めた。

2019年のJAF北海道ラリー選手権は、10月半ばに開催された、今回の、とかち2019で最終戦を迎えた。2019シーズンは、開幕2戦がスノーで、今回のオーガナイザーRTCが主催した第3戦は舗装。第4戦はミックスで、第5戦とこの最終戦がグラベルとなる。

RTCが毎年、秋に主催するこのラリーは、陸別を拠点とした、走り甲斐のあるグラベルラリーとしてすっかり定着しており、実際、今回の一戦も、一部、ラリー北海道で使用した林道を使用するなど、ダイナミックなインターラリーの魅力を垣間見ることができる。

ラリーはそのステージである「Kita Tomamu」3.87kmを2回、メインステージとする「Yayoi」は7.55kmを3回、そして陸別サーキットをゴールとする「Rikubetsu」2.73kmを2回走る、計7本35.85kmのSSを含む150km弱のルートが用意された。天候は、直接、上陸はしなかったものの、太平洋を抜けた台風の影響で不安定。小雨降る中、ラリーはスタートしたが、午後には一転して太陽も顔を覗かせるというコンディション変化の激しい一日となった。

RA-1クラスはシリーズリーダーの松波克知／尼子祥一組がSS1Rikubetsuでベストを奪うが、SS2Yayoiはライバル、山田健一／瀧正憲組が4秒差で松波組を下して首位に立つ。しかしRikubetsuの2本目となったSS3、Yayoiの再走となったSS4では、いずれも松波組が山田組を抑えて再逆転に成功した。

そしてKita Tomamuの1本めとなったSS5でも松波組は5秒差で山田組を抑え、その差を10秒に。続くSS6 Yayoiも0.5秒のリードでベストを奪った松波組は、最後はクールダウンする余裕を見せて、トータル9.6秒差で逃げ切った。

SS5で勝負を賭けたという松波選手は、「滑ったけど、意外と行けましたね。1ヵ所、危ない所があったけど何とかゴールできました。ただあれ以上行くと危ないので2本目は抑えました。やっぱり2回3回走れる道でも1発目にどれだけ走れるかが大事だと思うので、その意味では作戦通りのラリーができました」。今季も、1本めのSSでベストを奪ってラリーをリードして逃げ切る、というラリーが続いたが、「その辺はダートラやってた分、ここという1本には集中できてるのかな、という気はします」と振り返った。

RA-2クラスは、全日本チャンピオンの関根正人選手が乗っていたミラージュを駆る近藤大樹／近藤美玖組がSS1でベストを獲り、幸先の良いスタートを切るが、SS2の中盤でグレーチングの蓋を踏んでバースト、大きくタイムロスしてしまう。近藤組はその後、ベスト3本を

1.高桑昌基／山口昌洋組はRA-2で3位獲得。2.RA-3で3位獲得の岡直貴／仲田治夫組。3.近藤拓／松本真直組はRA-1で3位獲得。

4.チャンプ確定済みのRA-3井土正高／河野功組はシーズン3勝めを飾って有終の美。**5.** RA-2はセクション1でマージンを築いた山田裕一／清水裕貴組が逃げ切った。**6.** Jr.RA-2では田所悠／牛田啓太組が前半の劣勢を挽回してシーズン初優勝。**7.** Jr.RA-3では吉田雄貴／大納進太朗組が優勝を飾った。**8.** Jr.RA-1は全SSベストで走り切った白尾泰／鷹巣恵鈴組が前戦から2連勝。**9.** RA-1で2位入賞の山田健一／瀧正憲組。**10.** Jr.RA-2で2位獲得の石井裕也／荒谷みゆき組。**11.** 後半追撃したものの、僅かに及ばなかったRA-3岡田貴／村上比奈子組は2位。**12.** RA-2で2位を獲得した近藤大樹／近藤美玖組。**13.** RA-1クラス表彰の各選手。**14.** RA-2表彰の各選手。**15.** RA-3表彰の各選手。**16.** TGR Rally Challenge 2019 Joint cup北海道シリーズ表彰の各選手。**17.** RA-3で4位は三木晴夫／河村幸子組。**18.** RA-2で4位獲得の飛谷治寿／飛谷しのぶ組。**19.** RA-1で4位に入った寺尾基／佐野公彦組。

奪って追撃するも届かず。後半も安定したペースを守り切った山田裕一／清水裕貴組が12.1秒差で今季初優勝を飾った。

今季、エボ9から86に乗り換えた山田選手は、「歳を取って、ランサーのスピードに目がついて行けなくなったので(笑)、ドライビングの幅も広げられると思ってFRに乗り換えました。近藤選手のバーストは知ってましたが、ちょっとリードしてるかなくらいで、タイム差は意識せずに完走重視で走りました。函館在住なんで今年は東北のラリーにも出て楽しめましたけど、北海道のラリーは道が広くて速度も乗るので、これはこれで怖いけど、楽しいですね(笑)」と振り返った。

RA-3クラスではすでにチャンピオンを確定した井土正高／河野功組がSS1から3連続ベストで築いたマージンを守り切って優勝。井土選手も「雨で滑りやすくて厳しい道でしたけど、プレッシャーから解放されたので、勝つことだけ考えて楽しく走れました」と納得の一戦となったようだった。

SSの距離が短縮されるジュニア部門のRA-2クラスは、Kita TomamuのSS5までの勝負となったが、前半のタイムロスを最後の2本の激走で挽回した大学生、田所悠／牛田啓太組が優勝した。今季2度めの参戦だった田所選手は、「SS2でバーストしてしまって、SS3もリズムを崩してしまいました。このラリーは去年初めて出たんですけど、雨でビビって、しようもない走りしかできなかったんですよ(笑)。だから今年は絶対踏んでやろうと思ってたので、最後の2本は頑張りました」

その言葉通りに、SS4Yayoiではジュニアながら2WD総合でも3位に入る圧巻のベストタイムを奪取。前年のリベンジ達成の若者の今後の成長に期待していきたいところだ。

当日の参加者の皆さん。